



▲紫雲出山遠景



▲復元された住居

しう で や ま い せ き 紫雲出山遺跡 ～山頂に営まれた集落～

紫雲出山遺跡は、庄内半島にそびえる紫雲出山の山頂付近に広がる集落遺跡です。昭和59年に県指定史跡になりました。

昭和30年から32年にかけて、京都大学考古学研究室によって発掘調査が実施されました。その際に、300点を超える石鏃せきぞくをはじめとした多くの石器や、他地域でつくられたと考えられる土器など多種多様な遺物が出土しました。また、昭和63年に香川大学考古学研究室によって実施された発掘調査では、たてあなじゆうきよあと 竪穴住居跡1基と ほったてばしらたてものあと 掘立柱建物跡1基が確認されました。紫雲出山遺跡は出土した遺物から、弥生時代中期後半頃(約2100年～2000年前)の遺跡と考えられています。

遺跡は標高約350mという高地にあり、眺望がすばらしい場所に立地しています。このような立地

の遺跡は、瀬戸内海の島々やその沿岸に点在しており、ほぼ同じ時期に出現します。

これらの遺跡は『こうちせいしゅうらく 高地性集落』と呼ばれています。高地性集落はその立地はもちろんのこと、短期間しか使用されなかったことや、遺物に偏りがみられることなどの特異性から、長い間その性格について議論されてきました。紫雲出山遺跡については、石鏃が大量に出土したことや見晴らしが良いことなどから軍事的な遺跡であったという考えや、さまざまな地域から搬入された遺物が出土することから交易における一拠点のような役割を果たしていたという意見など、さまざまな見解が出されています。

現在、現地では発掘の際に確認された建物が復元されており、当時の様子を伺うことができます。

<生涯学習課>

今月の市民力

三豊のお土産ってどんなお菓子があるの?ということから始まった企画「みとよマルシェでおみや菓子」。

お土産菓子で三豊を知ってもらい、三豊に来てもらうきっかけになればと考えた企画に賛同し、18店舗が出店してくれました。どの店も三豊市らしさを備えた商品ばかりで、この企画のために新作の商品を作った店もありました。

それが一つに集まることで、三豊市をアピールする大きな力となりました。お店の皆さんの協力で、また一つ、三豊市の良いところを紹介することができました。

